

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名: チップクリーン AS (エアゾール)
会社名: 株式会社タセト
所在地: 〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前100-1
緊急連絡先: 化学品部
電話番号: 0466-29-5638
FAX番号: 0466-29-5630
推奨用途及び使用上の制限: 溶接チップ専用のスパッタ付着防止剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | | |
|-----------|-------------------|-----------|
| 物理化学的危険性 | エアゾール | 区分1 |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性(経口) | 区分外 |
| | 急性毒性(経皮) | 区分外 |
| | 急性毒性(吸入:粉塵・ミスト) | 区分4 |
| | 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | 区分2 |
| | 生殖細胞変異原性 | 区分2 |
| | 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 区分2(肺) |
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 区分1(肺、皮膚) |

*記載のない物理化学的危険性、健康に対する有害性及び環境に対する有害性は、分類対象外又はデータが無く分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール
高圧容器:熱すると破裂のおそれ
吸入すると有害
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
臓器(肺)の障害のおそれ
長期又は反復ばく露により臓器(肺、皮膚)の障害

注意書き:

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
火気のある場所、火花や静電気を発生するもの、高温熱源等の付近では、絶対に使用しないこと。また、電気設備や電気機器は防爆構造とし、機器類は全てアースをとること。
静電気対策を行い、帯電防止作業服、静電安全靴を着用すること。
取扱い作業場所では、密閉設備又は局所排気装置を設けて、十分に換気を行うこと。
保護手袋、保護眼鏡、保護面等、保護具を着用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
中身を容器から出し入れする場合は、周囲にこぼれないように十分注意すること。
取扱い後は手洗い、うがい等を行うこと。
環境への放出を避け、容器を密閉しておくこと。
指定された用途以外には使用しないこと。

【救急処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。(粉末、炭酸ガス、泡、等)

漏洩の場合には、速やかに適切な方法で回収すること。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 ばく露又はその懸念がある場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。
 コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗うこと。
 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 皮膚(又は毛髪)に付着した場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱いで取り除き、多量の水と石鹼で洗うこと。
 汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
 皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。
 飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。
 直ちに医師の診断、手当てを受けること。
【保管】 容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。
 子供の手の届かないところに保管すること。
【廃棄】 内容物や容器、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

含有成分：

| 成分名 | 含有量(%) | CAS No. | PRTR法 ¹⁾ |
|--------------------------------------|----------------|-----------------------------|---------------------|
| 鉱油 ^{II)} | 35～45 | 非公開 | 非該当 |
| その他 | <4 | 非公開 | 非該当 |
| 噴射剤 LPG :プロパン :ブタン ^{II)} | 10～15 45～50 | 74-98-6 75-28-5、106-97-8 | 非該当 |

危険有害成分

- I)化学物質排出把握管理促進法 非該当
 II)労働安全衛生法 第57条2 通知対象物質：鉱油(政令番号168)、ブタン(政令番号482)
 毒物劇物取締法 対象物ではない

4. 応急措置

- 目に入った場合： 清浄な水で十分に目を洗浄した後、直ちに眼科医の診断を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- 皮膚に付着した場合： 汚染された衣服・靴などを速やかに脱ぎ、多量の水または微温湯と石鹼で、付着した部分を洗い流す。加熱状態の製品が触れた場合は、洗浄した後に火傷に対する措置を行わなければならない。また、水疱、痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 吸入した場合： 新鮮な空気の場合に移動させ、身体を毛布などで被い、保温して安静を保つ。必要に応じて医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合： 無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。無理に吐かせるとかえって肺への吸引等の危険が増す。口の中が汚染されている場合には、水で充分に洗浄する。
- 最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報
 飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。
 目に入ると炎症を起こす可能性がある。
 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。
 ミスト・蒸気を吸入すると気分が悪くなる可能性がある。

5. 火災時の措置

| | |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 消火剤 : | 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、霧状の強化液などが有効である。 |
| 使ってはならない消火剤 : | 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。 火災を拡大して危険な場合がある。 |
| 特定の消火方法 : | 消火作業は可能な限り風上から行う。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。初期の火災の際には、粉末消火薬剤、二酸化炭素消火器を用いる。 大規模火災の際には、泡消火薬剤を用いて空気を遮断することが有効である。 注水は火災を拡大して危険な場合がある。 |
| 消火を行う者の保護 : | 消火の際には、風上から行い必ず保護具を着用する。 燃焼又は高温により有毒なガス(一酸化炭素等)が生成する可能性があるため、呼吸用保護具を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人体に対する注意事項 : | 除去作業の際には必ず適切な保護具を着用する。 大量の場合、漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。 |
| 環境に対する注意事項 : | 流出して製品が河川・下水道等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 |
| 除去方法 : | 漏出源を遮断し、漏れを止める。少量の場合には土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収し、その後を完全にウエス等で拭き取る。大量の場合には、漏洩した液を土砂などでその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収し、河川・下水道等に排出されない様に注意する。海上の場合には、オイルフェンスを展開し拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。薬剤を用いる場合には、国土交通省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。 |
| 二次災害の防止法 : | 事故の未然及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。周囲の着火源となるものを速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。こぼれた場所は滑りやすいために注意する。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 技術的対策 | |
| 取扱者のばく露防止 : | 取扱には適切な保護具を必ず着用し直接の接触を避ける。 容器から取り出す時にはポンプ等を使用すること。 細管を用いて口で吸い上げるようなこと(サイホン)はしてはならない。 また、口の中に入れて、飲んだりしてはならない。 |
| 火災・爆発の防止 : | 火気注意。炎、火花又は高温体との接触を避ける。 静電気対策を行い、作業着、靴等も導電性のものを使用する。 製品が残存している機械設備等を修理又は加工する場合は、安全な場所において製品を完全に除去してから行う。 電気機器類は防爆型(安全構造)のものを用いる。 |
| その他の注意 : | 常温で取扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意する。 また、取扱の都度容器を必ず密栓する。 油の抜き取り部位が熱い時の油の抜き取りは、火傷の危険があるため、油の抜き取り部位が冷めてから油を抜き取ること。 |
| 注意事項 : | 指定数量以上の量を取扱う場合には、市町村条例で定められた基準に満足する取扱所等で行う。 密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。 製品より発生する蒸気は空気より重く滞留しやすいので、みだりに蒸気を発散させないとともに作業場所の換気を十分に行う。 |
| 安全取扱い注意事項 : | 炎、火花又は高温体との接触を避ける。 静電気対策を行い、作業着、靴等も導電性のものを使用する。 電気機器類は防爆型(安全構造)のものを用いる。 空容器に圧力をかけてはならない。 圧力をかけると破裂することがある。 容器は溶接、加熱、穴あけまたは切断してはならない。 |

爆発を伴って残留物が発火することがある。

保管

適切な保管条件：

直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。
保管の際には市町村条例に従った表示を行う。
熱、スパーク、火炎及び静電気蓄積を避けるとともに、みだりに蒸気を発生させない。保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

安全な容器包装材料：

「危険物の規制に関する規則別表第3の2」に該当する容器を使用する。
容器は、「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5」に定める容器試験基準に適合していることを自主的に確認すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：

ミスト・蒸気が発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。取扱い場所の近辺に、洗眼及び身体洗浄の為の設備を設ける。

管理濃度：

設定なし

許容濃度：

日本産業衛生学会(2012年版) 3mg/m³ (鉱油ミストとして)
ACGIH(2011年版) TWA 5mg/m³ (Mineral oil)

保護具

呼吸器の保護具：

ミスト・蒸気が発生する場合、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
密閉された場所では、送気マスクを着用する。

手の保護具：

耐油性(不浸透性)保護手袋を着用する。

目の保護具：

飛沫が飛ぶ場合には、普通型眼鏡を着用する。

皮膚及び体の保護具：

耐油性の長袖作業衣、安全靴を着用する。
濡れた衣服は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。

適切な衛生対策：

作業中は飲食、喫煙をしない。休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。
また、休憩場所には、手袋等の汚染された保護具を持ち込んではいならない。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状：液体
色：褐色
臭い：臭気あり
pH：該当しない

物理的状態が変化する特定の温度

沸点：250°C以上(初留点)
融点：-15.0°C(流動点)
引火点：250°C以上(COC)

爆発特性

爆発限界：下限:1容量% 上限:7容量%(推定値)
密度：0.88g/cm³ (15°C)
溶解性：水に対する溶解度:不溶

「噴射剤」LPG

| | プロパン | ブタン |
|-------|--------------|--------------|
| 沸点： | -42°C | -0.5~-11.7°C |
| 凝固点： | -187°C | -138~160°C |
| 引火点： | -90°C | -72~-81°C |
| 爆発限界： | 2.2~9.5 vol% | 1.8~8.5 vol% |
| 蒸気密度： | 1.15 (空気 1) | 2.07 (空気 1) |

10. 安全性及び反応性

安定性：

常温・常圧で安定。

反応性：

強酸化剤と接触すると反応する可能性がある。

避けるべき条件：

強酸化剤との接触を避ける。

危険有害な分解生成物：

燃焼等により一酸化炭素等が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性

| | |
|-------------|-----------------------------------------|
| 鉱油 : | 経口 ラット LD ₅₀ 5 g/kg以上(推定値) |
| 局所効果 : | 皮膚や目、粘膜に対し、長期又は繰り返し接触する場合には刺激性がある恐れがある。 |
| 感作性 : | 現在のところ有用な情報なし。 |
| 慢性毒性・長期毒性 : | 現在のところ有用な情報なし。 |
| 発がん性 | |

 鉱油 : OSHAでは、「本製品に使用している鉱油は、高度精製鉱油であり、IARCではグループ 3 に分類(ヒトに対して発がん性について分類できない)」と評価されている。EUでは、「本製品に使用している鉱油は、発がん性物質としての分類は適用される必要ない」と評価されている。

 添加剤 : 現在のところ有用な情報なし。

 生殖細胞変異原性 : 文献1)の分類結果に従い区分2 とした。

 催奇形性 : 現在のところ有用な情報なし。

 生殖毒性 : 現在のところ有用な情報なし。

 特定標的臓器毒性
 (単回ばく露): 文献1)の分類結果に従い区分2(肺)とした。

 特定標的臓器毒性
 (反復ばく露): 文献1)の分類結果に従い区分1(肺、皮膚)とした。

 その他 : 飲むと下痢、嘔吐する恐れがある。皮膚に触れると炎症を起こす恐れがある。目に入ると炎症を起こす恐れがある。ミスト・蒸気を吸入すると気分が悪くなる可能性がある。

12. 環境影響情報

| | |
|------------|-------------------------------|
| 移動性 : | 物理化学的性質から見て、大気、水系、土壌環境に移動しうる。 |
| 残留性/分解性 : | 現在のところ有用な情報なし。 |
| 生体蓄積性 : | 現在のところ有用な情報なし。 |
| 生態毒性 : | 現在のところ有用な情報なし。 |
| オゾン層への有害性: | 分類できない |

13. 廃棄上の注意

| | |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 残余廃棄物 : | 事業者は残余廃棄物を自ら処理するか又は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 残余廃棄物は産業廃棄物として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で規制されているので、そのまま埋め立てたり、投棄してはならない。 |
| 汚染容器・包装 : | 内容物を完全に除去した後に残余廃棄物と同様に産業廃棄物として処理する。 |
| 焼却する場合 : | 安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法で行うとともに、見張り人をつける。 その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。 |

14. 輸送上の注意

国連分類

| | |
|---------------------------|------------------|
| UN No.(国連番号): | 1950 |
| Proper Shipping Name(品名): | エアゾール (Aerosols) |
| Class(クラス): | 2.1 |
| Packing Group(容器等級): | - |

国内規制

 陸上規制情報 消防法の規制に従う。

| | |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 積載方法 : | 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。 指定数量以上の可燃性液体類を車輛で運搬する場合は、市町村条例に定めるところにより、当該車輛に標識を掲げる。またこの場合、当該危険物に該当する消火設備を備える。運搬時の積み重ね高さは4m以下とする。 第一類及び第六類の危険物及び高圧ガスとを混載しない。 |
| 海上規制情報 | 船舶安全法の規制に従う。 |
| 航空規制情報 | 航空法の規制に従う。 |
| 緊急時応急措置指針番号: | 126 |
| 輸送の特定の安全対策及び条件 | 輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 該当法規に従い、包装、容器、表示、輸送を行う。本製品は、引火性液体なので、「火気厳禁」。 |

15. 適用法令

| | |
|------------------------|---------------------------------------------|
| 消防法 : | 指定可燃物、可燃性液体類 |
| 化学物質管理促進法 : (PRTR法) | 非該当 |
| 労働安全衛生法 : | 通知対象物質: 鉱油、ブタン |
| 毒物及び劇物取締法 : | 非該当 |
| 廃棄物の処理及び掃除に関する法律: | 産業廃棄物 |
| 水質汚濁防止法 : | 油分排出規制 ノルマルヘキサン抽出分として検出される。 |
| 海洋汚染防止法 : | 油分排出規制 |
| 下水道法 : | 鉱油類排出規制 |
| 船舶安全法: | 高圧ガス、エアゾール (危険物船舶運送及び貯蔵規則 第2、3条、告示 別表第1) |
| 航空法 : | 高圧ガス、エアゾール (航空法施行規則 第194条、告示 別表第1) |

16. その他の情報

参考文献:

- 1) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
- 2) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
- 3) JIS Z 7252:2009「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
- 4) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 5) 株式会社タセト 社内資料(原材料MSDS)

記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者を提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていないが、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。